

人間健康学部の教員の養成の目標

<人間健康学部 人間健康学科>

人間健康学部人間健康学科では、人間が幸福かつ豊かに生活できるよう、健康の維持や増進を図るために人間の健康（health）と健幸（well-being）に関わる基礎理論と実践的なアプローチを学び、それを基盤として、実際の社会とのつながりを密にした、総合的な人間の健康と健幸に関する高い専門性を持つ人材、地域コミュニティにおいて健康支援や生活支援の実践に携わることができる人材の養成を目指している。この教育理念のもと、(1)広い知識・視野と柔軟な思考を基盤に、健康の維持や増進を図る人間健康学に関する専門知識・技能を習得し、それを実践することができる素養、(2)円滑なコミュニケーション能力と将来を構想する力を持ち、関西大学が推奨する判断力と行動力を融合した「考動力」全般を身に付け、社会や他者のために、人間健康学に係る専門性を基盤とした責任ある行動をとることができる能力、(3)社会とのつながりの中で自ら課題を探求し、実践において他者と共感しながら協働することができる主体的な態度をそれぞれ身に付けるとともに、教科及び教職に関する体系的な教職課程カリキュラムの履修を通じて、教科指導及び生徒指導等における実践的指導力並びにそれらを下支えする強い使命感、教育的愛情、コミュニケーション力等、教師に求められる人格と力量を兼ね備える、豊かな感性と個性を持った教員を養成する。

<人間健康学部 人間健康学科 中一種免 保健体育>

基礎となる学部専門教育において、学びのメインテーマを健康(health)と健幸(well-being)に置き、自分が病気やストレスを抱えず「健康」でいるだけでなく、みんなが「健幸」に暮らせる社会を実現するために「こころ、からだ、くらし」のあらゆる面で「より良い生き方」とは何かを追求し、地球全体の「健幸」に向けてアクションを起こすことのできる能力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、基礎科目を通じて人間健康学(人間の誕生から高齢までのライフステージを対象とし、「こころ」と「からだ」と「くらし」を総合的な視点から捉え、人間の幸福を実現するための健康に関する諸問題の解決方法を探究する応用科学)の体系的な知識を幅広く学んだ後、「スポーツと健康コース(生涯にわたるスポーツ活動を通しての人間形成やコミュニティの再生、あるいはスポーツ教育を通じた新たな人間の健康の在り方を探り、地域コミュニティにおいて活躍できるスポーツ指導者などの養成を目指す。)」に所属し、スポーツと福祉に関わる専門性の深化と総合的なアプローチの視点を身に付けるとともに、2つの領域を有機的に連携させたカリキュラムで実践的な学びを深めつつ個別の研究テーマや課題にアプローチし、「人間が健幸(well-being)であること」を指標として、精神的にも肉体的にも「人間が幸福であること」「より良く生きること」を実現するための知恵や技法を養成している。これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、中学校「保健体育」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする、(2)運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う、(3)生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養うなど、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成できる質の高い教科体育と教科外体育の指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性の開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

<人間健康学部 人間健康学科 高一種免 保健体育>

基礎となる学部専門教育において、学びのメインテーマを健康(health)と健幸(well-being)に置き、自分が病気やストレスを抱えず「健康」でいるだけでなく、みんなが「健幸」に暮らせる社会を実現するために「こころ、からだ、暮らし」のあらゆる面で「より良い生き方」とは何かを追求し、地球全体の「健幸」に向けてアクションを起こすことのできる能力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、基礎科目を通じて人間健康学(人間の誕生から高齢までのライフステージを対象とし、「こころ」と「からだ」と「暮らし」を総合的な視点から捉え、人間の幸福を実現するための健康に関する諸問題の解決方法を探究する応用科学)の体系的な知識を幅広く学んだ後、「スポーツと健康コース(生涯にわたるスポーツ活動を通しての人間形成やコミュニティの再生、あるいはスポーツ教育を通じた新たな人間の健康の在り方を探り、地域コミュニティにおいて活躍できるスポーツ指導者などの養成を目指す。)」に所属し、スポーツと福祉に関わる専門性の深化と総合的なアプローチの視点を身に付けるとともに、2つの領域を有機的に連携させたカリキュラムで実践的な学びを深めつつ個別の研究テーマや課題にアプローチし、「人間が健幸(well-being)であること」を指標として、精神的にも肉体的にも「人間が幸福であること」「より良く生きること」を実現するための知恵や技法を養成している。これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、高等学校「保健体育」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする、(2)運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う、(3)生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うなど、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成できる質の高い教科体育と教科外体育の指導力を有し、総合的な探求の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性の開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。